

■常呂町総合年表に記録している「流氷」の簡易年表

和暦	西暦	月日	内 容
大正10年	1921	1月27日	本年初めてオホーツク海に流氷来たり（当直日誌）*翌日南風で退去
		4月3日	常呂近海を閉鎖していた流氷も昨今ようやく岸を離れ沖に去る（当直日誌）
		4月5日	役場付近の常呂川結氷が本日流失す（当直日誌）
		4月11日	定期船高松丸が本日から初めて入港。流氷のため網走に向かわず（当直日誌）
大正11年	1922	1月16日	オホーツク海一面初流氷、寒気凛烈（当直日誌）
大正12年	1923	1月6日	沖合に流氷の襲来を見る（当直日誌）
		1月10日	海面一帯に流氷襲来、気温著しく低下す（マイナス6度）流氷の漂着は今冬に入り初めてとする（当直日誌）
		1月11日	昨日襲来の流氷は、本日、沖合約1里に出る（当直日誌）
大正13年	1924	1月14日	本日、初めて流氷あり（当直日誌）
		1月15日	流氷、陸に接す（当直日誌）
		1月20日	昨日来、漸次流氷が陸から遠ざかる。暖気変わる（当直日誌）
		3月9日	滞留していた流氷が南風のため、水平線外に去る（当直日誌）
		4月4日	本日午後、北西風にて流氷が陸近くへ押し寄せる（当直日誌）
		4月5日	本日朝、東南の疾風あり、流氷中絶の箇所あり（当直日誌）
		4月8日	本日午後、役場付近の常呂川凍氷流失す。昨年は3月25日（当直日誌）
大正14年	1925	4月14日	昨夜来の雨がにわか大吹雪となり交通途絶状態。流氷、暴雨風のため下湧別の漁船4隻が漂流して本村に漂着、漁夫25人の内1人行方不明
		4月24日	猿澗湖畔紋別常呂郡境の流氷を期して湧別村漁業者有志が掘開する手配をするよう促している（当直日誌）*意識
昭和2年	1927	1月31日	流氷来る（当直日誌）
昭和5年	1930	1月10日	沖合まで流氷が来ていると聞く（当直日誌）
昭和9年	1934	3月	水上機母艦能登呂の水上機2機が流氷観測のため岐阜上空を初飛行 (岐阜部落開基80周年記念誌)
昭和25年	1950	1月25日	流氷来る（当直日誌）
昭和29年	1954	4月1日	流氷が完全に去る（当直日誌）
昭和31年	1956	3月15日	暖気上昇、雪解け多い。流氷も沖に出る（当直日誌）
昭和49年	1974	1月	サロマ湖に流氷流入、ほたて養殖施設被害甚大（常呂町百年史）
昭和63年	1988		サロマ湖に流氷流入。養殖施設被害なし（常呂漁協40年誌）
平成元年	1989	3月	サロマ湖内に流氷流入、緊急流氷対策、乗組員全員出動3日間滞在し、沖に去る（常呂漁協創立50周年記念誌）
平成2年	1990	7月24日	サロマ湖への流氷流入を防ぐ第4種サロマ湖漁港の工事起工式 (広報ところ)
平成15年	2003	4月4-5日	常呂港で大型作業船による流氷の大規模破碎（流氷割り）（ところ通信）